

地域と未来を育む、学びの架け橋を目指して

～株式会社ヤマトでの学びの記録～

令和6年度 長期社会体験研修員 野田 正司

【研修先企業：株式会社ヤマト】

研修先企業について

企業概要



名称 株式会社 ヤマト
所在地 群馬県前橋市古市町118
設立 昭和21年（創業：昭和20年）
代表者 代表取締役社長 町田 豊
資本金 50億円
従業員数 1103人（令和6年4月現在）
事業内容 建築・土木、空調・衛生、冷凍・冷蔵、
 上下水道・水処理・温浴に関する
 設計・施工・管理に関する事業

ヤマトのフィールドは総合エンジニアリング

地球温暖化の進行や異常現象の頻発、限りある天然資源の枯渇が懸念される現代。ヤマトは常に、地球環境にやさしい建築や設備を提案しています。地球への負担を最小限にするエネルギーの有効活用は、私たちの明るい未来社会に必要不可欠だと考えます。



年間研修計画

4月	・採用に関わる業務(人事部)
5月	・新人教育研修への参加 一般導入教育（名刺交換、電話応対、挨拶など） 各業務の基礎知識 ・フルハーネス型墜落制止器具特別教育、高所作業車（10t未満）特別教育
6月	・現場研修
7月	前橋市粕川町中之沢（浄水施設築造工事）
8月	・企業説明会参加（大学生、高校生対象）
9月	・浄水場水質調査（県央第一浄水場）
10月	・現場研修
11月	・材料検査同行（岐阜県岐阜市など）
12月	・協力校での実践授業実施 ・社内SDGs研修参加
1月	・現場研修
2月	・社内SDGs研修参加 ・群馬県教育フェスタ参加
学校教育との関わり等	人事部での求人活動を研修し、企業としての考え方を学ぶことができ、今後の進路指導において生かせる。また、現場研修では、専門分野を実際に体験し、現場でしか得られない知識を生徒へ還元する。

主な研修内容(4月～6月)

4月 身が引き締まる

初入社当日、人事課に通され、自分の机やノートPC、作業着等を貸与され、これから約1年間の研修が始まると身が引き締まりました。入社式後、新入社員の方々と教育センターでの研修が始まりました。社会一般教育という研修名で、名刺交換、電話対応、保険、給料についてなど、幅広い研修内容に、社員としての教育だけではなく、社会人として成長させるための研修だと感じました。生徒に対し、高校3年間まで考えて指導を行うのではなく、卒業後まで視野に入れた指導の必要性を考える機会になりました。



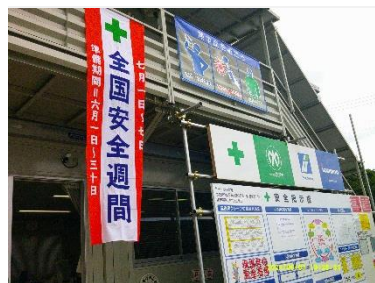
5月 資格とコンプライアンス

新入社員研修に参加してから1か月が経ちました。研修内容も、社会人としての学びから、ヤマト社員としての学びへシフトし、各業務内容を学ぶ時間が増えました。その中で、資格取得にも参加しました。資格を取得するという意識をもって、受講することにより、その作業についての知識、危険性、注意点など、より深く学ぶことができました。資格を通じた学びは、専門教科の指導の参考になりました。また、コンプライアンスについて学び、その大切さを強く感じました。高校生が社会に出るに当たり、この意識をもって、卒業してほしいと考え、授業実践のテーマに決定しました。



6月 現場研修開始

前橋市内の浄水場の築造工事現場で研修を行うことになりました。現場経験のない私にとっては、教科書上の作業を目の当たりにでき、この経験は今後の授業実践の充実につながると感じました。特に、現場での安全に関する意識の高さに感銘を受けました。安全を考慮した環境づくりは、現場監督の視野の広さと危機管理能力が必要不可欠であると学びました。教育現場においても俯瞰的に広い視野で生徒を見つめ、いつでも手を差し伸べられる意識をもつことの重要性を改めて学びました。

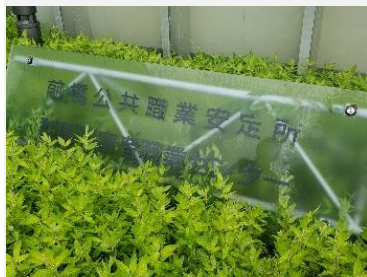


振り返り

4、5月と新入社員研修に参加し、学生から社会人になる皆さんと時間を共有しました。そこで学生時代には、社会に出るための準備の有無がいかに大切かを肌で感じることができました。この経験から、社会に出てから学ぶこと、学校で学ぶことを明確にし、具体的な指導・助言を行うことが、キャリア教育の充実につながると考えました。現場研修では、学校で学ぶ基礎となる作業が、現場での応用に結び付くことを実感しました。先述したとおり、学校で学べること、社会に出て学ぶことを、指導する教員が把握した上で、実践する必要があることを学びました。

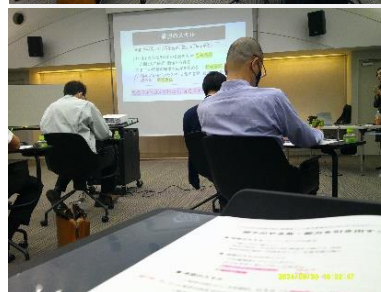


主な研修内容(7月～9月)



7月 求人活動

現場研修を行いながら、人事課の求人活動に同行しました。社員として、例年とは逆の立場を経験することにより、学校側の対応や興味の示し方など、企業側から俯瞰的に見ることができました。また、高校生対象の企業見学会に携わり、業務内容の簡潔かつ明確な説明やプレゼンの巧みさは、今後の授業の参考になりました。そして、生徒を多角的に見ることが、人材発掘に大切であることを知りました。生徒を理解する上でも同様なことが言えると考えます。多角的な視点で生徒を見つめ、理解を深め、指導を行っていきたいと考えます。



8月 脱パワハラ研修

社内の管理職向けコンプライアンス研修に参加しました。「脱パワハラ型マネジメント」という内容で、生徒と関わり合う私としては実りの多い時間となりました。特に印象に残っている内容は「アンガーマネジメント」です。怒りの意識をコントロールし、脱パワハラを目指すというものでした。自分をコントロールすることにより、周囲に与える影響を考慮することができる人材は、社内の人間関係を良好に保てると考えます。私も含め、生徒にも身に付けてほしいスキルだと感じました。



9月 様々な視点から

現場研修にて、建設業協会による安全パトロールがありました。これは、現場内外の安全を点検していくものです。その中で女性の関係者で編成された「環境すみずみパトロール」というものがあり、女性の視点で現場事務所やトイレなどを点検していくものでした。この多様性の時代にとっても適した活動であると思いました。建設業でも女性の雇用が増えてくる中で、その環境整備がまだ完全ではないと言われています。様々な視点から現場環境を考え、誰でも働きやすい環境を作ること、これから社会に出る高校生にとってもプラスに働く活動であると考えます。



振り返り

企業の求人に携わり、求人を出す側からの体験は、大変貴重なものとなりました。教育現場からでは見えない視点を体験することは、今後の進路指導の改善につながると感じました。

コンプライアンス研修では、自分自身の感情のコントロールの大切さを学びました。対話をする際の注意点として、頭ごなしに伝えるのではなく、相手のことを考え、冷静に簡潔に伝えることが、重要であることを念頭に置いていきたいです。

安全パトロールでは、自分では気付きにくい箇所を指摘してもらい、日々改善していく大切さを学びました。

主な研修内容(10月～12月)



10月 材料検査

ステンレスタンクの建設にあたり、その材料であるステンレスの検査を施工会社の工場で行うため同行しました。材料の寸法や状態など綿密に確認している様子に、施工だけでなくその材料の大切さも学びました。また、材料の接合を溶接で行う様子も見学しました。熟練の技術を見ることができ、生徒の進路活動において、本物の技術を見せることも進路決定のきっかけになると考えました。今後の授業実践でも、このような機会を少しでも多く作る必要があると強く考えた日となりました。



12月 SDGs 研修

ステンレスタンクの施工が始まり、現場の景色が一変しました。職人の方々の技術とチームワークを見学し、日々の学ぶ姿勢と助け合う大切さを学びました。

「SDGs」に関する社内研修に参加しました。社員の方々が、多様な意見をお互いに尊重し、検討を繰り返し行い、ブラッシュアップしていく様子を学ぶことができました。学校でも話し合いを行うことはありますが、内容を深く検討したりブラッシュアップしたりする機会は少ないと思います。今後の授業に取り入れていきたいと考えます。



11月 授業実践

7ヵ月ぶりの授業で対象が学年全体ということもあり、不安の中の授業実践となりました。校則、コンプライアンスを通じ、自ら決まりごとを守れるようになるというコンセプトで授業を行いました。時間配分や内容が理解しづらいなど反省点もありましたが、検討会での多くの先生方による内容の精査のおかげで、自分の思いや考えを生徒たちに伝えることができました。本研修を経験したからこそ、実践できた授業であったと考えます。



振り返り

この3ヵ月は授業実践の記憶が強く残っています。初めての学年全体を対象とした授業は、準備、本番の難しさと実践してみたの課題が残りました。本研修で学んだICTの知識をフルに活用し、ヤマトの総務部長様からのオンライン講話や参観した社員の方からの話など、多くの研修先企業の方々の協力を得ることで、たくさんの学びを生徒に伝えることができました。授業後のアンケートでは、内容が理解できたとの意見が多く、よい学びの時間になったのではないかと考えます。

主な研修内容(1月～2月)



1月 円滑な作業

2025年が始まり、新しい気持ちで新年を迎えられました。先月始まったステンレスタンクの溶接も、あっという間に完成へと近づいてきました。職長を中心とした朝礼での指示・伝達が、職人とのコミュニケーションを良好にし、この作業スピードを産む要因の一つだと感じました。現場研修で、コミュニケーションの必要性を改めて学ぶことが多くありました。

学校にはコミュニケーションが苦手な生徒もいます。そのような生徒が、どうすれば社会に順応できるか、考えさせられる時間が多くあった1か月間でした。



2月 1年間の実践発表

先月末から多くの時間をかけて、教育フェスタへ向けて準備をしてきました。これまでの研修の内容や得た知識、学んだことを振り返り、資料作成、プレゼンの練習を重ね、当日を迎えました。当日は、とんでもない緊張感があり、不安でいっぱいでした。支えてくださった皆様のおかげで、なんとか無事に乗り切ることができました。同じ研修を行っている仲間とともに、フェスタが成功に終わり、全員で笑顔で終わることができました。今までの研修内容について、しっかりと伝えることができたと思います。

～1年間のまとめ～



本研修の成果として、キャリア教育と専門分野の深化が挙げられます。企業と教育センターでの学びを実践授業に生かし、キャリア教育の知識を深めることができました。また、現場研修では、基礎を支える技術と現場監督の創意工夫を直接体感し、建設業が社会に必要な不可欠な職業であることを改めて認識しました。

研修を通して見えてきた課題としては、多角的な生徒理解、キャリア教育の実践、職員間の情報共有が挙げられます。今後は、企業の視点を取り入れた生徒理解、社会とつながるキャリア教育、そして的確な情報共有を目指します。この研修の成果を生かし、育てたい生徒像を「自分で自分を守る生徒」と掲げ、その育成に尽力していきたいと考えます。



センター研修と授業実践

センター研修

5月 キャリア教育研修

キャリア教育と聞くと「=進路」と考えていましたが、進路だけでなく、その先の将来を視野に入れ、小学校から高等学校まで同じ目標掲げて児童生徒が学びを重ねていくことを学びました。キャリア教育の中で、自分ができることを取捨選択し、本研修で得た知識を、自分の言葉として生徒へ伝えていきたいです。



9月 研究協力校の授業実践検討会

企業での新人研修で学んだことをテーマに実践授業を計画しました。自分の言葉で表現することが難しく、検討会で各指導主事、長期研修員の先生方からアドバイスをいただき、ようやく形にすることができました。授業の検討会が初めてであり、自分だけの考えではなく、様々な視点から意見をいただくことで、ブラッシュアップされていくことが、とても新鮮で、学ぶことが多くありました。



1月 長期研修員との交流

長期研修員の研究発表を見学しました。1年間、センターに勤務し、テーマに沿って研修された成果はとても興味深く、学びの多い時間となりました。また、発表する態度、姿勢が素晴らしく、様々な要素を取り入れた発表資料が、研修成果を際立たせ、より理解しやすい資料になっていると思いました。今後の授業づくりの参考にしたいです。



研究協力校での授業実践

対象：第2学年（生物生産科、グリーンライフ科、創生工学科）

特別活動

自ら守れる自分になろう！

ねらい

校則やコンプライアンスを通して、決まりごとのもつ意味を考えるきっかけを作り、その本質を把握し自ら遵守しようとする姿勢を育む。

授業の流れ・様子

導入

- ・研修先企業の紹介
- ・本時の目標

展開①

- ・校則のもつ意味を考える
- ・グループワークで考え、ICT端末で意見の共有

展開②

- ・コンプライアンスを学ぶ
- ・教育用ゲームのプラットフォームによるクイズ
- ・ヤマト社員様の講話

まとめ

- ・振り返り
- ・心に残った言葉を入力、テキストマイニングで共有
- ・ヤマト社員様からひとこと



校則の意味を考える
グループワーク



まとめのテキストマイニング



ヤマト社員の講話視聴

振り返り

- ・ヤマト社員の講話により授業の内容が充実した。
- ・時間配分、理解しやすい言葉選びが課題である。